

## 日本人英語学習者の“go”に関する連語と教科書の扱い —学習者コーパスを利用した連語指導の改善に向けて

今 田 健 蔵

### はじめに

中学生・高校生の英語によるコミュニケーション能力を育成するために、語彙指導は避けては通れない課題である。現場で語彙指導をしていくと、学習者の様々なエラーが見られる。例えば、現在中学1年生を指導している筆者は、次のようなエラーが多いことに気づいた。

- (1) \*I go to swimming to the lake.
- (2) \*I go to shopping to Shibuya.
- (1)' I go swimming in the lake.
- (2)' I go shopping in Shibuya.

go を使用する場合、go to の直後は場所に関する表現が入る。したがって、(1)の go to swimming などは非文法的であるとされる。go に続けて分詞を入れると「～しに行く」という意味になり、文法的に適切な英語の表現となる。このように、慣習的に用いられる2語以上の語句のことをコロケーションとよんでいる(Firth, 1980)。コロケーションとほぼ同様に、決まりきった単語の組み合わせで、まとまった意味をなす表現のことを連語、熟語ともよばれている(岡部・松本, 2010; O'Dell & McCarthy, 2008)。本論文ではこれ以降、これらのことを連語という語句に統一する。

連語は語彙の範疇にあり、語彙というと、受容語彙(receptive vocabulary)と発表語彙(productive vocabulary)の2種類に大別される。英語によるコミュニケーション能力を育成するためには、発表語彙を増やすことが求められる。Rob(2002)は次のように述べている。

There are 2 major stages in word learning. The first stage is matching the word's spelling and pronunciation (its form) with its meaning. When this is known, the student should then work on the deeper aspects of word knowledge. This may include the words it goes with, and does not go with; the restrictions on its use (以下省略)

発表語彙を増やすためには、その語に関する知識、すなわち語形の変化や同意語等を知っていたほうがよく、特にどの語と結びついて頻繁に使われるかという知識の習得が重要である。すなわち、連語の習得が、発表語彙を増やすことになり、ひいては英語によるコミュニケーション能力の育成のために重要になるのである。

さて、先ほどみてきた中学1年生の go の連語に関するエラーは学習者が学習を継続するにしたがって、減少していくことが望まれる。Abe(2007)は、“I came to there”のような動詞と前置詞で構成される連語のエラーは学習が継続していくにつれて減少していくと述べている。また、小泉(2005)では発表語彙の広さ(中核的意味を知っている語や語句の数)が増えるにつれて、発表語彙の深さ(1つの語や語句に対し、反意語や連語をどの程度知っているか)も深まると述べている。しかし、筆者の教えている高専4・5年生の学生でも、この go に関する連語のエラーが見られた。このような連語に関するエラーは、学習を継続しても習得は難しいのだろうか。

中学生・高校生の学習の中心である教科書ではどのように連語が扱われているだろうか。今田(2012)は、連語の種類、そしてその扱いは中学校の教科書間で偏りがあることを示している。また、村岡(2010)は中学校で使用される6社合計18冊の検定教科書で使用される語彙を調査し、使用する

教科書によって中学生が学習する語彙には大きな差があると述べている。さらに、Koya(2004)では、改訂前の高等学校の教科書間で連語の扱いに偏りがあることを示している。したがって、もし、高校で英語の学習を継続してもエラーが減少していないのであれば、それは高校の教科書の扱いに偏りがあるのが一因ではないかと推測される。

そこで本論文では、日本人英語学習者コーパス JEFLL(以下 JEFLL)を使い、学習者の go の使用をみていきたい。また、現場の指導の中心的存在で、今現在使用されている文部科学省検定済み教科書の中の go の使用をみていきたい。本論文の目的は以下の2つである。

- (1) go に関する連語のエラーは中学から高校へと学習を継続していけば、減少していくのかを明らかにする。
- (2) go に関する連語の扱いに中学校・高等学校の各教科書間で差があるのかを明らかにする。

## 1章 日本人英語学習者の go の使用

### 1.1 データー日本人英語学習者コーパス JEFLL について

学習者コーパスとは、ある学習者集団が書いた英語のテキストの集合で、これらを指導や研究に活用できるようデータベース化し検索ができるようになったものである。そして、本研究に使用したデータは、投野由紀夫を中心として構築された中高生の英作文コーパス Japanese EFL Learner (JEFLL) Corpus に基づくものである。検索ツールは、JEFLL Corpus の web 検索システム (小学館コーパスネットワーク) を利用した。

このコーパスの母集団は日本の中学校・高等学校の英語学習者である。公開されているデータの語数とファイル数・学校の種別や学校のレベルについては投野 (2007) より以下に引用する(括弧内の数字はファイル数を示す)。

表 1: JEFLL の英作文データにおける中学校・高等学校別の語数とファイル数

	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
語数	51,160	159,741	117,764	60,713	170,557	78,981
ファイル数	1,393	2,635	1,589	742	1,977	1,189

表 1 からわかるようにこのコーパスは中学 1 年生から高校 3 年生までの英作文を幅広くデータにしていることがわかる。

表 2: JEFLL の英作文データにおける学校の種別と学校のレベル<sup>1</sup>

	高	中	低	合計
国立	287,285(4,512)	49,310(711)	0(0)	336,595(5,223)
公立	0(0)	52,090(865)	1,827(104)	53,917(969)
私立	270,854(8,229)	7,938(130)	0(0)	278,792(3,846)
合計	558,204(8,229)	109,273(1,705)	1,827(104)	669,304(10,038)

表 2 から、このコーパスは、学校のレベルが高い学習者からのデータが大半であることがわかる。

英作文のテーマは論説文と叙述文の 2 タイプに大きく分けられ、それぞれのタイプに各 3 種類の作文トピックが設けられている。以下の英作文は授業時間内で実施し、制限時間は 20 分、辞書の使用は不可とし、どうしても英語にできない部分は日本語で書いても構わないという設定で収集された。ただし、データ収集の環境によって指示やモデル文に若干の差異があるとしている。また、データ収集の実際は、研究協力者である現場の中高教員の采配に一任されている。特に、一部の協力校では 1 つの集団に複数のトピックを書かせている場合があるとしている。トピックとその語数およびファイル数を次に示す。

<sup>1</sup> 学校のレベルをどのように分けたかは、JEFLL の解説書である投野 (2007) でも明らかになっていない。

表 3: JEFLL における英作文トピックの種類とその語数

トピック	語数(ファイル数)
論説文：(1) 「朝ごはんにはパンがいいかご飯がいいか？」	137,289(2,033)
(2) 「大地震が来たら何を持って逃げますか？」	77,729(1,026)
(3) 「お年玉〇円もらったら、何を買いますか？」	127,070(2,055)
叙述文：(1) 「あなたの学校の文化祭について教えてください。」	161,645(2,280)
(2) 「浦島太郎のその後について想像して書きなさい。」	78,306(1,286)
(3) 「今まで見た怖い夢について教えてください。」	87,265(1,358)

## 1.2 中学生・高校生における go の使用

JEFLL で中学 1 年生から 3 年生の go の使用と高校 1 年生から 3 年生の go の使用を検索した。なお、検索条件は go を基本形とし、①go の直後に to がくる例(go to Ueno station, go to school など)、②go の直後に to + Ving がくる例(go to swimming, go to shopping など)、③go の直後に Ving がくる例(go fishing など)、④それ以外(go trip, go on a vacation, go up など)、の 4 種類にまとめた。なお、基本形とは go を動詞として扱う場合、時制などで変化するため、go, goes, went, going, gone を全て含めた形のことをいう。以下、go の基本形を GO と表す。また、近い未来の予測や、前もって考えていた意図を表すとされる、いわゆる be going to という表現に関連する例は結果から除いた。このような条件で検索してまとめた結果を次に示す。

表 4: 中学 1 年生～3 年生の GO の使用

1937		
GO	to～	1384
	その他	451
	Ving	67
	to + Ving	35

表 5: 高校 1 年生～3 年生の GO の使用

1489		
GO	to～	818
	その他	578
	Ving	67
	to Ving	26

中学生では、GO を検索した時、基本形として検索した時、合計 1937 例があった。そのうち、GO + Ving とする例は 67 例あり、一方、GO to + Ving とするエラーは 35 例あった。また、高校生では合計 1489 例の GO の使用があった。そのうち、GO + Ving は 67 例で、一方 GO + to Ving とする例は 26 例あった。

#### 1.4 考察

表 4 と表 5 から、go の連語に関するエラーは学習を継続しても減少することはないと考えられる。一見、中学生が GO to + Ving とする例が 35 例あるのに対し、高校生では同様のエラーが 26 例となって減少しているように見える。しかし、次に示すように、全体における比率をみると、減少していないことがわかる。

図 1: 中学生の GO の使用

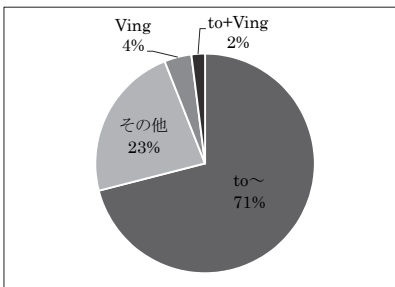
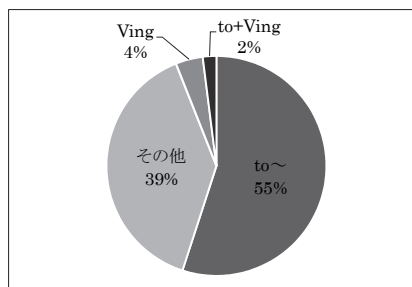


図 2: 高校生の GO の使用



高校生は中学生に比べ、GO to～という使用が減少し、代わりに多様な表現を用いていることがわかる。一方、GO to + Ving というエラーは中学生の比率と変わらず2%になっている。

また、JEFLL が扱っている英作文は、表2からも分かる通り、国立や私立の学校を中心とした、英語の習熟度が高いと予想される学習者が書いたものである。そうであるにもかかわらず、中学生・高校生に共通してエラーが起こってしまうということが明らかになった。

## 2章 検定教科書におけるGOの使用

### 2.1 中学校で使用される教科書におけるGOの使用

本論文で、GOの連語の扱いを調査した中学校の教科書は、New Crown(以下NC)とNew Horizon(以下NH)という2種類で、3学年分調査した。そして、中学生の通常の授業で必ず扱うとされる各章の本文のみに調査を限定した。次に各教科書での扱いを表にして示す。なお、表における「./?」に該当するのは、例えばWhy did you go?やLet's go.などである。

表6: NCでのGOの使用

19		
GO	to～	11
	./?	4
	back	1
	with	1
	away	1
	home	1

表 7: NH での GO の使用

16		
GO	to～	9
	. / ?	3
	home	2
	there	1
	with	1

調査の結果、GO + Ving という連語は扱われていないことが明らかになった。また、GO to～という連語の使用が比較的多いということがわかった。

## 2.2 高等学校で使用される教科書における GO の使用

本論文で、連語の扱いを調査した高等学校の教科書は、Crown(以下 Cro)、Genius(以下 Ge)、Grove(以下 Gro)、Unicorn(以下 Uni)、My Way(以下 MW)、All Aboard(以下 AA)、Vivid(以下 Viv)、Power On(以下 PO)、Vista(以下 Vis)の9種類である。この9種類は、2014(平成 26)年度の東京都立の高等学校・中等教育学校(後期課程)で、全体数と比べて多くの学校が採択をした<sup>2</sup>教科書が中心である。調査では、通常の授業で必ず扱うとされる各章の本文のみに調査を限定した。次に9種類の教科書での扱いを表にして示す。なお、表における空欄は0回を示す。

<sup>2</sup> Cro は 16 校、Ge は 7 校、Gro は 14 校、Uni は 6 校、MW は 16 校、AA は 25 校、Viv は 14 校、PO は 12 校、Vis は 44 校で、合計 154 校である。なお、採択された教科書は全 25 種類あり、その 25 種類を採択した学校は合計で 257 である。



表 8: 高校の教科書での GO に関する連語の使用

		Cro	Ge	Gro	Uni	MW	AA	Viv	PO	Vis
	合計	14	13	6	6	3	2	2	1	0
GO abroad	1						1			
GO across	1			1						
GO as	1		1							
GO away	1		1							
GO back	4	1	1		1	1				
GO down	3	3								
GO in	1							1		
GO into	2	2								
GO on	4	2		1		1				
GO out	2			1	1					
GO round	1			1						
GO through	4	2	1		1					
GO to	18	3	7	2	3	1	1	1	1	
GO unnoticed	1		1							
GO well	1		1							
GO wrong	1	1								

調査の結果、GO + Ving という連語は扱われていないことが明らかになった。また、高校生になると GO に関する連語の種類が中学生に比べて増加するということがわかった。

### 2.3 考察

調査の結果、中学校や高等学校の教科書の本文に GO + Ving が出てこないということがわかった。このことが、学習者が GO to V ing としてしまう一因になるのではないかと推測する。学習者は、たびたびある文法規則を過度に一般化する。学習者は、GO の後に使われる語は to であると覚えるだけで、to の後にどんな語が使われ、どんな語は使われないのかまでは覚えていないことが多いのではないかと推測する。なぜなら、教科書の本文で出会う GO に関する連語は GO to 場所の組み合わせが大半だからである。したが

って、指導者は、GO に関する連語を指導する際、どんな語が同時に使用されるかということも、語や語句の発音や意味と同じくらい丁寧に、指導する必要がある。

高等学校における教科書で GO + Ving の連語を扱わないのは、中学校で既習であるという判断が教科書作成者側にあると考えられる。Cro では、巻末に語句の意味がのっているページがあり、ここには GO + Ving の表記が太字で表記してある(付録 1 参照)。この太字は「中学校で既習である」という意味の太字で、したがって教科書本文には登場していない。そのかわり、高校では、GO + Ving という連語以外の連語は幅広く扱われていることがわかる。

### 3 章 まとめ—連語指導の改善に向けて

GO に関する連語は、特に GO + Ving は、書き言葉で使用されるよりも、もっぱら話し言葉で使われることが多いと考えられる。したがって、GO に関する連語が教科書で出てきたところで、コミュニケーション活動等を通じて、それらの学習をより深く進めておくことが効果的ではないかと考える。その際、形式や意味を指導するのと同じように、どんな語が同時に使用されるのかを指導することが重要である。ただし、一度に全てを学習者に教えるのは避けるべきである。導入段階では、基本的な単語の知識、例えば中核的な意味や発音を指導する。そして、定着段階では、導入段階で得た知識を利用してのさまざまなコミュニケーション活動や、練習をする。最後に発展段階では、コロケーションなどの語彙知識の深さを深める活動をする。

本論文では、JEFLL コーパスを使用して、学習者の GO に関する連語を調査した。また、中学校と高等学校で使用される英語教科書の本文中に使用される GO に関する連語を調査した。その結果、明らかになったことは次の2つである。まず、①学習者は GO + Ving という連語の習得は、学習をある程度継続したとしても、難しいということがわかった。これは、

Abe(2007)が”I came to there”のような動詞と前置詞で構成される連語のエラーは学習が継続していくにつれて減少していくとする研究結果とは一致しない結果となった。また、小泉(2005)の発表語彙の広さ(中核的意味を知っている語や語句の数)が増えるにつれて、発表語彙の深さ(1つの語や語句に対し、反意語や連語をどの程度知っているか)も深まるという研究結果とも一致しない結果となった。次に、②中学校と高等学校の教科書の双方において、GO + Ving という連語が提示されていないことがわかった。Koya(2004)は、改訂前の高等学校の教科書間で連語の扱いに偏りがあることを示しており、改訂した今日の教科書を調査した本論文の結果と一致する結果となった。

したがって、本論文は、以上の調査結果をふまえ、学習者のGOに関する連語指導の重要性を示唆するものである。しかし、連語指導の改善方法を具体的に提示するには至っていない。また、どうしてGO + Ving という連語が、先行研究であるAbe(2007)や小泉(2005)の結果と異なり、学習が継続しても習得が困難なのか。そもそも、GO + Ving をGO + to Ving とすることは、意味的にはほとんど問題はなく、理解できることなので、学習者や指導者がそこまで重要性を感じていないのかもしれない。これらについては今後の課題としていきたい。

なお、本論文を作成するにあたり、神奈川大学外国語学部准教授の久保野雅史先生に原稿を丹念に校閲頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- Abe, M. (2007). A Corpus-Based Investigation of Errors Across Proficiency Levels in L2 Spoken Production. *JACET Journal*, 44, 1-14. Retrieved November 8, 2013, from ci.nii.ac.jp/naid/110007006142
- Firth, J.R. (1957). *Paper in linguistics 1934-1951*. London: Oxford University Press.
- Koya, T. (2004). A Comparison of Verb-Noun Collocations Collected from

Revised High School English Textbooks in Japan. *The Bulletin of the Graduate School of Education of Waseda University, Separate Volume, 11, 2*, 55-70. Retrieved November 8, 2013, from [dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/5876/1/KJ00004251304.pdf](http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/5876/1/KJ00004251304.pdf)

O'Dell, F., & McCarthy, M. (2008). *English collocations in use: Advanced*. Cambridge: Cambridge University Press.

Rob, W. (2002). Basic Principles and Practice in Vocabulary Instruction. Retrieved November 8, 2013, from [www.robwaring.org/vocab/principles/basic\\_principles.htm](http://www.robwaring.org/vocab/principles/basic_principles.htm)

岡部幸枝・松本茂 編著 (2010) 『高等学校新学習指導要領の展開 外国語科英語編』 明治図書

小泉利恵 (2005) 日本人中高生における発表語彙知識の広さと深さの関係 『STEP BULLETIN』 17 (pp.63-79), 財団法人日本英語検定協会

今田健蔵 (2012) コミュニケーション能力の育成に有効な連語の提案—学習者コーパスを利用した連語指導の改善に向けて 『言語と文化論集』 19 (pp.157-196), 神奈川大学

投野由紀夫編著 (2007) 『日本人中高生一万人の英語コーパス JEFLL Corpus』 小学館

村岡亮子 (2010) 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙 『STEP BULLETIN』 22 (pp.182-203), 財団法人日本英語検定協会

<文部科学省検定済み中学校英語教科書>

*New Crown English Course 1* (2006) 三省堂

*New Crown English Course 2* (2006) 三省堂

*New Crown English Course 3* (2006) 三省堂

*New Horizon English Course 1* (2006) 東京書籍

*New Horizon English Course 2* (2006) 東京書籍

*New Horizon English Course 3* (2006) 東京書籍

<文部科学省検定済み高等学校英語教科書>

*All Aboard English Communication I* (2013) 東京書籍

- Crown English Communication I* (2013) 三省堂  
*Genius English Communication I* (2013) 大修館  
*Grove English Communication I* (2013) 文英堂  
*My Way English Communication I* (2013) 三省堂  
*Power On English Communication I* (2013) 東京書籍  
*Unicorn English Communication I* (2013) 文英堂  
*Vista English Communication I* (2013) 三省堂  
*Vivid English Communication I* (2013) 第一学習社

## 付録 1

Word List B

wow		nonbeliever	168
wrestling	8	notion	169
written/wrote/		nuclear	169
written/		patience	172
writer		peaceful	169
wrong		perseverance	172
yard		presidency	168
year		president	168
yellow		presume	170
yen		race	167
yes		recognize	170
yesterday		refuse	169
yet		restroom	167
you		reveal	169
young		seek	171
your		segregation	168
yours		separate	167
yourselves/		span	169
yourselves		spiral	169
zero		spiritual	167
zoo		stairway	169
administration	170	steal	170
almighty	168	swill	168
apart	171	taste	168
approach	170	transparent	170
belief	170	unarmed	169
bitter	168	unconditional	169
brief	171	united	168
chapter	168	universal	170
civil	168	unyielding	170
commit	171	weapon	172
commitment	172	whether	171
confidence	170	yearn	170
content	167		
conviction	172		
cynical	169		
depend	173		
destruction	169		
dignity	171		
distinct	171		
effort	171		
elect	168		
emerge	168		
erase	172		
existence	172		
fear	171		
flash	172		
generation	172		
govern	170		
government	170		
hatred	169		
hell	169		
imagine	173		
judge	167		
justice	167		
law	170		
legacy	172		
lifetime	172		
maintain	171		
militaristic	169		

総語数 1,619語  
 新語数 405語  
 (OPTIONAL LESSON  
 72語)

## Phrase List

(数字はページを表す。太字は中学校での既習とした語句)

<b>A</b>	<b>be different from</b>	cut out ~	132
<b>a few</b> ~	<b>be famous for</b> ~	day after day	150
<b>a glass of</b> ~	<b>be from</b> ~	day by day	61
<b>a great many</b> ~	<b>be full of</b> ~ 34	deal with ~	18
	<b>be glad to</b> ~	dispose of ~	18
<b>a kind of</b> ~	<b>be going to</b> ~	distract ~ from ...	130
<b>a little</b>	<b>be gone</b> 117		
<b>a lot</b>	<b>be good at</b> ~ /	<b>do one's best</b>	
<b>a lot of</b> ~	<b>V-ing</b>	<b>Don't worry.</b>	
<b>a mountain of</b> ~	<b>be in a panic</b> 161	dozens of ~	20
	<b>be in danger of</b> ~	dream of ~	5
<b>a pair of</b> ~			
<b>a piece of</b> ~	85	<b>each other</b>	
<b>a series of</b> ~	98	<b>in</b> ~	
<b>a sort of</b> ~	76	<b>be likely to</b> ~	148
<b>above all</b>	148	<b>be made of</b> ~	
<b>act on</b> ~	135	<b>be no more</b> 150	
<b>add to</b> ~	129	<b>be passionate</b>	
<b>after a little while</b>	75	<b>about</b> ~	67
<b>after school</b>		<b>be ready to</b> ~	99
<b>agree with</b> ~	130	<b>be (sick) in bed</b>	
<b>all day</b>		<b>be surprised to</b> ~	130
<b>all in all</b>	7	<b>be to</b> 不定詞	
<b>all over the world</b>			150, 154
<b>all right</b>		<b>because of</b> ~	50
<b>along with</b> ~	85	<b>become aware</b>	
<b>around the world</b>		<b>of</b> ~	131
<b>arrive in</b> ~	34	<b>begin with</b> ~	86
<b>as a matter of fact</b>	(53)	<b>believe in</b> ~	9, 20
<b>as a result</b>	(94), 129	<b>between ~ and ...</b>	
<b>as ~ as ...</b>	33	<b>break through</b> ~	86
<b>as ~ as possible</b>	6	<b>burn off</b> ~	116
<b>as for</b> ~	114	<b>burst out</b> V-ing	148
<b>as if</b> ~	85	<b>by bus [train, ship, bike, etc.]</b>	
<b>as much ~ as ...</b>	45	<b>by oneself</b>	
<b>as soon as</b> ~	83	<b>by the way</b>	
<b>ask for</b> ~	45	<b>by V-ing</b>	45
<b>ask ~ to ...</b>	150	<b>call out</b> ~	104
<b>at a time</b>	34	<b>cannot help</b> V-ing	(153)
<b>at first</b>	46	<b>carry on</b>	150
<b>at home</b>	62	<b>close to</b> ~	17
<b>at last</b>		<b>come back</b>	
<b>at least</b>	101	<b>come from</b> ~	
<b>at once</b>		<b>come in</b>	160
<b>at the age of</b> ~	33	<b>come on</b>	
<b>at the same time</b>	101	<b>Come on.</b>	
<b>back to front</b>	75	<b>come out</b>	150
<b>be able to</b> ~		<b>come to</b> ~	9, 160
<b>be afraid of</b> ~		<b>come to an agreement</b>	6
<b>be based on</b> ~	36	<b>come true</b>	50
<b>be born</b>		<b>compete with</b> ~	144
<b>be covered with</b>			
~	100		

go through ~ 113  
**go to bed**  
**go V-ing**  
 go wrong 84  
**grow up**  
 happen to ~ 50  
**have a good time**  
**have been to ~**  
 have ~ in common 82  
 have nothing to do with ~ 76, (89)  
**have to ~**  
 help (to) ~ 19  
 help + 人 (+ to) ~ 64  
**help ~ with ...**  
**Here you are.**  
**Here's ~.**  
 hold ~ by the ... 114  
**How about ~ ?**  
**How about you ?**  
**How are you ?**  
**How do you do ?**  
**How long ~ ?**  
**How many ~ ?**  
**How much ~ ?**  
**How old ~ ?**  
**how to ~**  
**hundreds of ~**  
 hundreds of millions of ~ 143  
**I mean** 82  
**I see.**  
 I wonder why. (11)  
 in addition (94)  
 in any way 82  
 in conclusion (94)  
 in contrast (94)  
 in front 75  
**in front of ~**  
 in general (94)  
 in harmony with ~ 20  
 in order to ~ 81  
 in other words (94)  
 in pain 116  
 in print 150  
 in search of ~ 33  
 in short (94)  
 in the face of ~ 151  
**in the future**  
 in the midst of ~ (121)  
 in the past 118  
 in this way (94)

**in those days in time**  
 In what way? 83  
**in + 言語**  
 instead of ~ 131  
 interfere with ~ 131  
**keep ~ from ...** 129  
 keep in touch with ~ 131  
 keep on V-ing 147  
**keep V-ing kind(s) of ~**  
 last ~ + 期間 158  
 laugh at ~ 76, 149  
 learn to ~ 133  
 leave ~ with ... 119  
 lie in ~ 86  
**listen to ~**  
 live in poverty 62  
 Long live ~ ! 104  
 with knowing looks 78  
**look after ~**  
**look at ~**  
 look back at ~ 113  
**look for ~**  
**look like ~**  
 look ~ up (107)  
**lots of ~**  
 make a difference 87  
**make a mistake**  
 make up ~ 84  
 match (up) ~ with ... 67  
**May I ~ ?**  
**Me too.**  
 millions of ~ 113  
 more and more 18  
 more specifically (94)  
**more than ~**  
**most of ~**  
 move to ~ 33  
**next to ~**  
**Nice to meet you.**  
 no longer 77, 129  
 no matter + 疑問詞 144, 154  
**No problem.**  
**No, thank you.**  
 not ~ at all 161  
 not in the least ~

not mind V-ing 161  
 not only ~ but also ... 22, 64  
 Not really. (39)  
 nothing but ~ 132  
**of course**  
 on and on 5  
 on line 129  
 on *one's* back 114  
 on (the) one hand (94)  
 on the other hand (94)  
 one another 82  
 one ~ another ... (the other) 20  
**one day**  
**one of ~**  
 one time 85  
**out of ~**  
**over there**  
 pass ~ down 104  
 pay attention to ~ 146  
 play a ~ role 65  
 play by ear 45  
 protect ~ from ... 129  
 put ~ into ... 144  
 put off ~ 77  
 put ~ on (53)  
 ~ rather than ... 100  
**See you.**  
 set out 75, 97  
 shake hands (with ~) 162  
**Shall I ~ ?**  
 share ~ with ... 87  
**sit down**  
 smile a ~ smile 161  
 so that ~ 63  
**so ~ that ...**  
 some ~, others ~, and still others 75  
 spend ~ on ... 130  
 spend ~ V-ing 81  
 ~ square kilometer(s) 17  
**stand up**  
 stay around 66  
**stay with ~**  
 stop off (121)  
 ~, such as ... 62  
 take a bath 7

take a look at ~ 116  
 take away ~ 134  
**take care of ~**  
 take chances 104  
**take off**  
 take off ~ 114  
 take on ~ 35  
 take *one's* (own) life 97  
 ... take + 時間 + to ~ 5  
**thank ~ for ...**  
**Thank you.**  
**Thanks.**  
 that is ~ (94)  
 that is to say ~ (94)  
 That is when ~ 114  
**That's right.**  
 that's what ~ is all about 87  
 That's why ~ 86  
 the way S + V 97  
 there is ~ left 132  
 think about ~ 75, 117  
 think of ~ as ... 64  
 think of V-ing 158  
 those who ~ 67  
 throw away ~ 133  
 to be more specific (94)  
 to conclude (94)  
 to *one's* surprise 8  
 to sum up (94)  
 together with ~ 99  
**too ~ to ...**  
 turn around 115  
 turn ~ into ... 18  
 turn to ~ 84  
**used to ~ 132, 138**  
**very much**  
 vote on ~ 66  
**wait for ~**  
**wake up**  
 waste ~ on ... 77  
 wave ~ aside 161  
**Welcome to ~**  
**What about ~ ?**  
 what to ~ 87  
**What's up?**  
 when it comes to ~ 37  
**Why don't you ~ ?**  
**Why not ?**

with the help of ~ 7  
 without the help of ~ 7  
 without V-ing 62  
 work at ~ 33  
 work on ~ 20  
 work *one's* way through ~ 86  
 worry about V-ing 6  
 ~ worth of ... 64  
**would like to ~**  
 would love to ~ 51  
 would rather ~ 66  
**write to ~**  
**OPTIONAL LESSON**  
 ~ after ~ 169  
 as though ~ 168  
 cannot help but ~ 168  
 come down 167  
 commit *oneself* to ~ 171  
 depend on ~ 173  
 free from ~ 171  
 free of ~ 173  
 have a say in ~ 170  
 have the final word 169  
 join hands 167  
 meet the challenges 169  
 spiral down ~ into ... 169  
 stand for ~ 171  
 stand together 171  
 the first to ~ 168  
 thousands of ~ 172  
 with conviction 172  
 yearn for ~ 170